

---

**COVID-19 感染拡大による施設オーバーナイト透析 (INHD) の休止経験を経て**

---

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック 大村腎クリニック

○堀幸一郎 田口尚人 矢野利幸 高木伴幸 前川明洋 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越 哲

**【背景】**

2021年、COVID-19感染拡大により、期せずしてデイトタイム透析 (IDHD) と INHD のクロスオーバーを経験したため、生化学データの推移や透析中の処置回数等を報告する。

**【対象】**

INHD 実施中の患者 9 名。

**【方法】**

INHD と休止期間中の、生化学データや透析中の処置回数等を比較した。

**【結果】**

INHD から IDHD に移行した際の生化学データは、BUN(56.9、65.8)、Cr(11.3、13.2)、K(4.6、4.9)、P(4.6、6.0)と有意に上昇した。再び INHD となった後には、BUN(69.3、56.4)、Cr(14.1、11.1)、K(5.3、4.7)、P(6.7、4.7)と有意に改善していた。IDHD 期間には血圧低下に伴う処置を要する回数が、INHD 時の平均 0.1 回から 1 回へ有意に増加した。

**【考察】**

今後も患者の安全を最優先しながら、INHD の評価と普及に努めたい。